

令和6年度一関市観光審議会

日時：令和6年7月19日(金) 午前10時～11時30分

場所：一関市役所 2階 大会議室A

次 第

1 開 会

2 挨拶

3 議 事

(1) 会長、副会長の選出について

(2) 一関市観光振興計画の推進について

4 その他

5 閉 会

配布資料

- ・資料No.1 一関市観光振興計画（令和4年度～令和8年度）の目標指標と実績
- ・資料No.2 令和5年度事業実施状況
- ・一関市観光振興計画概要版

一関市観光振興計画（令和4年度～令和8年度）の目標指標と実績

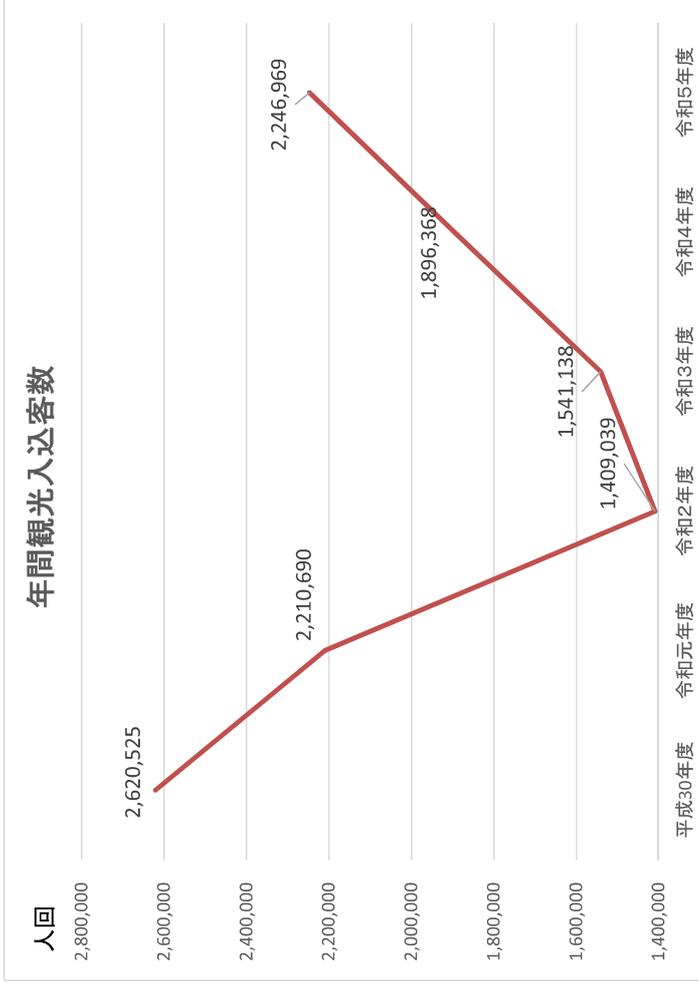
本計画の
目標指標

令和元年度（2019年度）

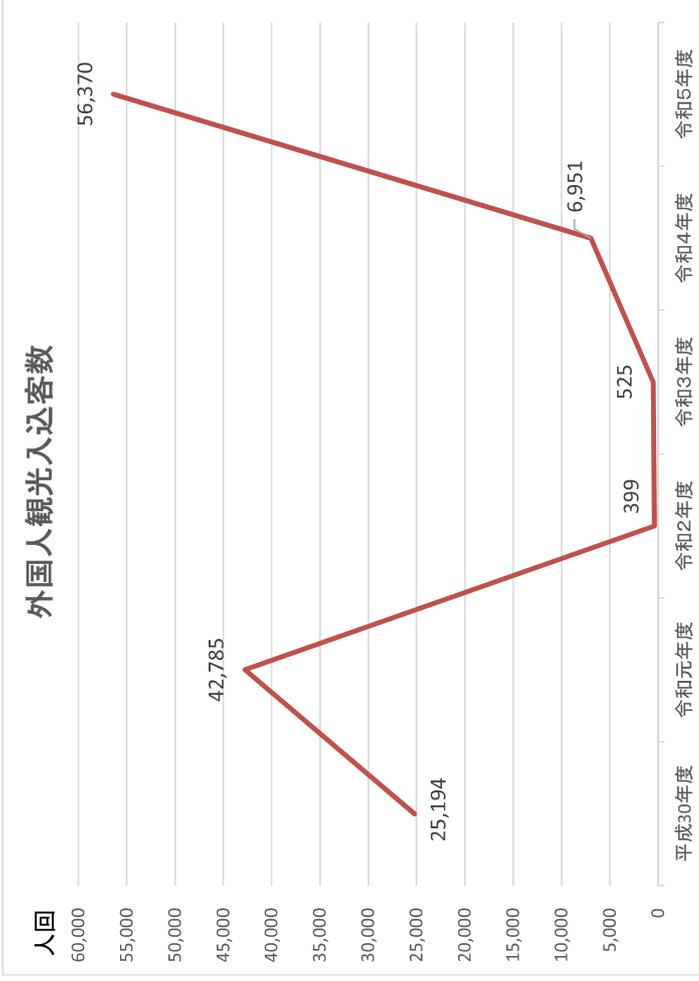
- ・年間観光入込客数 約221万人回
- ・外国人観光入込客数 42,700人回
- ※参考指標 観光消費額 124億円

令和8年度（2026年度）目標値

- ・年間観光入込客数 221万人回
- ・外国人観光入込客数 42,700人回
- ※参考指標 観光消費額 124億円



年度	年間観光入込客数	伸び率
平成30年度	2,620,525	
令和元年度	2,210,690	-15.6%
令和2年度	1,409,039	-36.3%
令和3年度	1,541,138	9.4%
令和4年度	1,896,368	23.0%
令和5年度	2,246,969	18.5%



年度	外国人観光入込客数	伸び率
平成30年度	25,194	
令和元年度	42,785	69.8%
令和2年度	399	-99.1%
令和3年度	525	31.6%
令和4年度	6,951	1224.0%
令和5年度	56,370	711.0%

令和5年度事業実施状況

資料No.2

基本方針	観光振興戦略	重点的取り組み	令和5年度事業実施状況	成果・効果・課題・今後の方向性など
<p>1 平泉との連携強化による「いちのせき」の発信</p> <p>①平泉と主要観光地をつなぐルートを生かした一関ブランドの発信</p> <p>②骨寺村荘園遺跡の活用や平泉とのゆかりを生かした観光振興</p> <p>③観光地域づくりと地域内経済循環の推進</p>	<p>(1)世界文化遺産「平泉」と市内観光地を結ぶ周遊観光ルートの定着と公共交通機関の利用促進</p> <p>(2)一関・平泉地域の特産品やもち食文化など特徴的な観光資源を活用した誘客事業の創出</p> <p>(3)骨寺村荘園遺跡など平泉とのゆかりを生かした観光誘客の推進</p>	<p>○観光期間 二次交通整備事業補助金</p> <p>【事業概要】 観光客の周遊化を図るため、平泉駅から福島温泉及び一ノ関駅から須川温泉間のバス運行事業に係る経費に対し補助した。</p> <p>【実施状況】 ・補助金交付件数 2件 ・平泉駅～須川温泉 火曜日運休 1日3往復 ▶補助金 3,357,379円 ▶運行期間 4月29日から11月5日まで ・一ノ関駅～須川温泉間 毎日運行 1日2往復 ▶補助金 3,455,294円 ▶運行期間 6月17日から10月31日まで ▶利用者数 3,969人</p>	<p>【成果・効果】 ・観光客の円滑な移動手段（利便性）を確保し、周遊観光を促進させ、滞在時間や交流人口の拡大を図った。 ・利用者は、令和4年度と比較し、平泉・げいび渓谷は1,468人、須川温泉は860人増加しており、コロナ禍以降減少していた観光客の利用状況は回復傾向にある。</p> <p>【課題】 ・平泉・げいび渓谷は、現状の利用人数では、費用対効果が見合わない、2路線ともに赤字路線であり、市からの補助金がなければバス運行を維持することができない。</p> <p>【今後の方向性】 ・周遊観光を促進するため、今後もバス路線の維持継続が必要と捉えている。 ・利用美態の把握による運行形態の見直しやPR等により利用者の間に努める。</p>	<p>【成果・効果】 ・11月の誘客イベントで、LINE友達が増加し、平泉町、奥州市、一関市に訪れる観光客が増加した。 ・平泉を中心にSNSを活用したキーワードラリーを実施することで、楽しみながら広域周遊観光を促進させることができた。 ・金色堂建立900年を迎える中尊寺などの「世界遺産平泉」を広くPRし、首郡園からの誘客に努めた。</p> <p>【今後の方向性】 ・タイのイベントにPRブースを出展し、当地方の認知度向上と誘客促進を図った。</p> <p>【課題】 ・国内外からの誘客のため、首郡園や海外への平泉世界遺産の情報発信が必要である。</p> <p>【今後の方向性】 ・継続実施 ・WEBやSNSを活用し、潜在観光客や周遊観光に向けた情報発信の強化を図る。</p>
<p>④一関市と主要観光地をつなぐルートを生かした一関ブランドの発信</p> <p>⑤骨寺村荘園遺跡の活用や平泉とのゆかりを生かした観光振興</p> <p>⑥観光地域づくりと地域内経済循環の推進</p>	<p>(4)一関市と主要観光地をつなぐルートを生かした一関ブランドの発信</p> <p>(5)骨寺村荘園遺跡の活用や平泉とのゆかりを生かした観光振興</p> <p>(6)観光地域づくりと地域内経済循環の推進</p>	<p>○骨寺村荘園遺跡保全活用事業費</p> <p>【事業概要】 骨寺村荘園遺跡の普及啓発及び伝統的な小區画水田や土水路等の保全活用に関する経費</p> <p>【実施状況】 ・事業費 1,330,344円（業務委託等）</p>	<p>【成果・効果】 ・市内内外への情報発信や小區画水田の田植え体験交流イベントなどによる一関市の認知度向上と誘客促進を図った。</p> <p>【課題】 ・体験交流会などへの参加者確保を図るため、骨寺村荘園交流館を核とした情報発信と遺跡価値の普及啓発を継続して行う必要がある。</p> <p>【今後の方向性】 ・継続実施</p>	<p>【成果・効果】 ・市内内外への情報発信や小區画水田の田植え体験交流イベントなどによる一関市の認知度向上と誘客促進を図った。</p> <p>【課題】 ・体験交流会などへの参加者確保を図るため、骨寺村荘園交流館を核とした情報発信と遺跡価値の普及啓発を継続して行う必要がある。</p> <p>【今後の方向性】 ・継続実施</p>
<p>⑦一関市と主要観光地をつなぐルートを生かした一関ブランドの発信</p> <p>⑧骨寺村荘園遺跡の活用や平泉とのゆかりを生かした観光振興</p> <p>⑨観光地域づくりと地域内経済循環の推進</p>	<p>(7)一関市と主要観光地をつなぐルートを生かした一関ブランドの発信</p> <p>(8)骨寺村荘園遺跡の活用や平泉とのゆかりを生かした観光振興</p> <p>(9)観光地域づくりと地域内経済循環の推進</p>	<p>○食と産の観光PR事業費</p> <p>【事業概要】 一関市の伝統的食文化である「もち食文化」の普及・継承と「もち食」を活用した観光振興を図った。</p> <p>【実施状況】 ・事業費 6,239,073円（業務委託等） ・主な事業 ▶一関もち食推進会議の開催（年7回） ▶もち本舗体験講座の開催（中里小6年20人、遊沢小6年17人） ▶もちマイスター検定及びプロローアーズ研修の実施 ▶一関の多彩なもち料理のデモンストラーション化 ▶一関もち食PRキャラクター及び一関市もち食PRロゴマークの募集・決定</p>	<p>【成果・効果】 ・特色ある「もち食文化」を観光資源として磨き上げ、市内内外への周知に取組んだことで、テレビや雑誌などメディアからの取材が増加してきている。</p> <p>【課題】 ・もち関連事業を通じて、当地方の「もち食文化」の伝承・普及が図られている。</p> <p>【今後の方向性】 ・もちマイスターの育成と活動機会の創出。 ・継続実施 ・もち食文化を活用した事業を展開し、「もちの聖地いちのせき」の認知度向上を図る。</p>	<p>【成果・効果】 ・特色ある「もち食文化」を観光資源として磨き上げ、市内内外への周知に取組んだことで、テレビや雑誌などメディアからの取材が増加してきている。</p> <p>【課題】 ・もち関連事業を通じて、当地方の「もち食文化」の伝承・普及が図られている。</p> <p>【今後の方向性】 ・もちマイスターの育成と活動機会の創出。 ・継続実施 ・もち食文化を活用した事業を展開し、「もちの聖地いちのせき」の認知度向上を図る。</p>
<p>⑩一関市と主要観光地をつなぐルートを生かした一関ブランドの発信</p> <p>⑪骨寺村荘園遺跡の活用や平泉とのゆかりを生かした観光振興</p> <p>⑫観光地域づくりと地域内経済循環の推進</p>	<p>(10)一関市と主要観光地をつなぐルートを生かした一関ブランドの発信</p> <p>(11)骨寺村荘園遺跡の活用や平泉とのゆかりを生かした観光振興</p> <p>(12)観光地域づくりと地域内経済循環の推進</p>	<p>○一関地方物産振興協会負担金</p> <p>【事業概要】 一関地方の物産振興を図ることを目的に地場特産品生産者等で組織する団体の活動に対する負担金</p> <p>【実施状況】 ・負担金 54,000円 ・主な事業 ▶「第27回黄金の国産芸術」の開催（千飯酒のくろ交流施設） ▶一関地方物産振興協会ホームページでの情報発信 ▶地場特産品の商品開発や海外販路開拓に係る研修会の実施</p>	<p>【成果・効果】 ・一関地方の物産振興が促進され、一関市観光協会や世界遺産平泉・一関市DMOとの連携により、物産振興が図られた。</p> <p>【課題】 ・高齢化等により会員の減少（退会）が進んでいる。 ・当地方の物産の魅力を伝える機会が不足している。 ・もものつくりや体験活動を通じた観光客の誘客に繋がっていない。</p> <p>【今後の方向性】 ・新たな特産品開発に向けた取組が必要である。 ・継続実施</p>	<p>【成果・効果】 ・一関地方の物産振興が促進され、一関市観光協会や世界遺産平泉・一関市DMOとの連携により、物産振興が図られた。</p> <p>【課題】 ・高齢化等により会員の減少（退会）が進んでいる。 ・当地方の物産の魅力を伝える機会が不足している。 ・もものつくりや体験活動を通じた観光客の誘客に繋がっていない。</p> <p>【今後の方向性】 ・新たな特産品開発に向けた取組が必要である。 ・継続実施</p>

令和5年度事業実施状況

基本方針	観光振興戦略	重点的取り組み	令和5年度事業実施状況	成果・効果・課題・今後の方向性など
<p>2 観光資源の活用と情報発信の充実</p>	<p>①地域資源の掘り起こしと活用 ②観光情報の充実 ③ニューツーリズムの推進 ④栗駒山、室根山、箱ヶ森エリアやその周辺の観光資源の活用 ⑤誘客の推進 ⑥外国人に対する情報発信の強化</p>	<p>(1)観光資源の掘り起こし・磨き上げによる魅力の創出 (2)「食・農・観光」の連携による魅力の発信 (3)四季を通じた特色あるイベントの充実 (4)観光ホームページやSNS等多様なツールを活用した国内外に対する情報発信の強化 (5)体験型観光の強化による農家民泊、教育旅行等の誘致 (6)須川・草湯・祭時地区、室根山、箱ヶ森エリアのアウトドア資源等を活用した観光誘客の推進 (7)観光キャンペーン等と連動したプロモーションの強化</p>	<p>【成果・効果】 ・一関地方の観光シーズンの裾開けイベントとして定着している。 ・一関市観光振興委員会に対し補助した。 【実施状況】 ・補助金 1,200,000円 ・開催日 4月30日</p> <p>【事業概要】 ・一関地方の観光シーズンの裾開けイベントである「一関春まつり」を実施する。実行委員会に対し補助した。 【実施状況】 ・補助金 1,200,000円 ・開催日 4月30日</p> <p>【事業概要】 ・地域の活性化と交流人口や関係人口の拡大を目的とする夏まつりの開催に対する負担金 【実施状況】 ・一関夏まつり ▶負担金 10,080,000円 ▶開催日 8月4日から8月6日まで ・花火夏まつり ▶負担金 2,000,000円 ▶開催日 8月11日（花火フェスティバル）、11月3日（はないずみ花火大会） ・千鶴夏まつり ▶負担金 800,000円 ▶開催日 7月29日 ・むすね七夕夏まつり ▶負担金 350,000円 ▶開催日 7月8日 ・かわさき夏まつり花火大会 ▶負担金 3,577,000円 ▶開催日 8月16日</p>	<p>【成果・効果】 ・観光シーズンの裾開けイベントとして定着している。 ・一関市観光振興委員会に対し補助した。 【課題】 ・更なる誘客を図る必要がある。 【今後の方向性】 ・継続実施。 ・内容やPR方法など、魅力的な誘客イベントに向けた連携が必要である。</p> <p>【成果・効果】 ・新型コロナウイルス感染症が感染症法において5類に移行し、4年ぶりに至るまで夏まつりを開催することができ、地域の活性化や交流人口の拡大に繋がった。 【課題】 ・新型コロナウイルス感染症の影響により中止していた期間に落ち込んだ参加者数を増やす工夫が必要である。 ・一関市の観光イベントとして、参加を促す権限など、観光客の誘客に向けた取組が必要である。 【今後の方向性】 ・継続実施。 ・各地域の特色を生かし、より多くの市民の参加や観光客の誘客を目指す。</p>
	<p>【事業概要】 ・一関市観光振興委員会に対し補助した。 【実施状況】 ・補助金 1,200,000円 ・開催日 4月30日</p>	<p>【事業概要】 ・一関市観光振興委員会に対し補助した。 【実施状況】 ・補助金 1,200,000円 ・開催日 4月30日</p>	<p>【成果・効果】 ・観光シーズンの裾開けイベントとして定着している。 ・一関市観光振興委員会に対し補助した。 【課題】 ・更なる誘客を図る必要がある。 【今後の方向性】 ・継続実施。 ・内容やPR方法など、魅力的な誘客イベントに向けた連携が必要である。</p>	<p>【成果・効果】 ・観光シーズンの裾開けイベントとして定着している。 ・一関市観光振興委員会に対し補助した。 【課題】 ・更なる誘客を図る必要がある。 【今後の方向性】 ・継続実施。 ・内容やPR方法など、魅力的な誘客イベントに向けた連携が必要である。</p>
	<p>【事業概要】 ・一関市観光振興委員会に対し補助した。 【実施状況】 ・補助金 1,200,000円 ・開催日 4月30日</p>	<p>【事業概要】 ・一関市観光振興委員会に対し補助した。 【実施状況】 ・補助金 1,200,000円 ・開催日 4月30日</p>	<p>【事業概要】 ・一関市観光振興委員会に対し補助した。 【実施状況】 ・補助金 1,200,000円 ・開催日 4月30日</p>	<p>【成果・効果】 ・観光シーズンの裾開けイベントとして定着している。 ・一関市観光振興委員会に対し補助した。 【課題】 ・更なる誘客を図る必要がある。 【今後の方向性】 ・継続実施。 ・内容やPR方法など、魅力的な誘客イベントに向けた連携が必要である。</p>
	<p>【事業概要】 ・一関市観光振興委員会に対し補助した。 【実施状況】 ・補助金 1,200,000円 ・開催日 4月30日</p>	<p>【事業概要】 ・一関市観光振興委員会に対し補助した。 【実施状況】 ・補助金 1,200,000円 ・開催日 4月30日</p>	<p>【事業概要】 ・一関市観光振興委員会に対し補助した。 【実施状況】 ・補助金 1,200,000円 ・開催日 4月30日</p>	<p>【成果・効果】 ・観光シーズンの裾開けイベントとして定着している。 ・一関市観光振興委員会に対し補助した。 【課題】 ・更なる誘客を図る必要がある。 【今後の方向性】 ・継続実施。 ・内容やPR方法など、魅力的な誘客イベントに向けた連携が必要である。</p>
	<p>【事業概要】 ・一関市観光振興委員会に対し補助した。 【実施状況】 ・補助金 1,200,000円 ・開催日 4月30日</p>	<p>【事業概要】 ・一関市観光振興委員会に対し補助した。 【実施状況】 ・補助金 1,200,000円 ・開催日 4月30日</p>	<p>【事業概要】 ・一関市観光振興委員会に対し補助した。 【実施状況】 ・補助金 1,200,000円 ・開催日 4月30日</p>	<p>【成果・効果】 ・観光シーズンの裾開けイベントとして定着している。 ・一関市観光振興委員会に対し補助した。 【課題】 ・更なる誘客を図る必要がある。 【今後の方向性】 ・継続実施。 ・内容やPR方法など、魅力的な誘客イベントに向けた連携が必要である。</p>
	<p>【事業概要】 ・一関市観光振興委員会に対し補助した。 【実施状況】 ・補助金 1,200,000円 ・開催日 4月30日</p>	<p>【事業概要】 ・一関市観光振興委員会に対し補助した。 【実施状況】 ・補助金 1,200,000円 ・開催日 4月30日</p>	<p>【事業概要】 ・一関市観光振興委員会に対し補助した。 【実施状況】 ・補助金 1,200,000円 ・開催日 4月30日</p>	<p>【成果・効果】 ・観光シーズンの裾開けイベントとして定着している。 ・一関市観光振興委員会に対し補助した。 【課題】 ・更なる誘客を図る必要がある。 【今後の方向性】 ・継続実施。 ・内容やPR方法など、魅力的な誘客イベントに向けた連携が必要である。</p>
	<p>【事業概要】 ・一関市観光振興委員会に対し補助した。 【実施状況】 ・補助金 1,200,000円 ・開催日 4月30日</p>	<p>【事業概要】 ・一関市観光振興委員会に対し補助した。 【実施状況】 ・補助金 1,200,000円 ・開催日 4月30日</p>	<p>【事業概要】 ・一関市観光振興委員会に対し補助した。 【実施状況】 ・補助金 1,200,000円 ・開催日 4月30日</p>	<p>【成果・効果】 ・観光シーズンの裾開けイベントとして定着している。 ・一関市観光振興委員会に対し補助した。 【課題】 ・更なる誘客を図る必要がある。 【今後の方向性】 ・継続実施。 ・内容やPR方法など、魅力的な誘客イベントに向けた連携が必要である。</p>

令和5年度事業実施状況

基本方針	観光振興戦略	重点的取り組み	令和5年度事業実施状況	成果・効果・課題・今後の方向性など
<p>2 観光資源の活用と情報発信の充実</p> <p>①地域資源の掘り起こしと活用</p> <p>②観光情報の充実</p> <p>③ニューツーリズムの推進</p> <p>④栗駒山、壺根山、館ヶ森エリアやその周辺の観光資源の活用</p> <p>⑤誘客の推進</p> <p>⑥外国人に対する情報発信の強化</p>	<p>①観光資源の掘り起こし・磨き上げによる魅力の創出</p> <p>②「食・農・観光」の連携による魅力の発信</p> <p>③四季を通じた特色あるイベントの充実</p> <p>④観光ホームページやSNS等多様なツールを活用した国内外に対する情報発信の強化</p> <p>⑤体験型観光の強化による農家民泊、教育旅行等の誘致</p> <p>⑥須川・真湯・祭時地区、室根山、館ヶ森エリアのアウトドア資源等を活用した観光誘客の推進</p> <p>⑦観光キャンペーン等と連動したプロモーションの強化</p>	<p>〇地こフレステイティブイベント開催補助金</p> <p>【事業概要】 ・全国の地こフレステイティブイベントを開催することで、一周年をPRするとともに、関連産業の発展と地域振興、活性化を図った。当初、実行委員会に対し補助予定であったが、事業収入で開催に必要な経費を確保できたこととし、令和5年度は実行委員会予算での開催となった。</p> <p>【実施状況】 ・補助金 0円 ・開催日 8月18日から8月20日まで ・来場者数 28,250人 ・参考 ヒール靴売金額 186,930,250円 イベント会場内使用金額 280,830,298円 交通費・宿泊費消費額 計 467,760,548円</p>	<p>【成果・効果】 ・実行委員会の継続的な取り組みにより、全国各地からの来場者が多く、市内の交通・宿泊・飲食・観光など、地域経済へ好循環をもたらすイベントとして定着している。</p> <p>【課題】 ・開催会場が手狭であり、配座に苦慮している。 ・屋外イベントで天候等の影響を受けやすく、事業収支を安定確保する必要がある。</p> <p>【今後の方向性】 ・継続実施。 ・出店ブースの配置など魅力的なイベントを運営することで、地域経済の活性化を図る。</p>	<p>【成果・効果】 ・もち食文化の魅力を発信し、体験機会を提供することで地域活性化が図られた。</p> <p>・特産品を活用したスタンプラリーイベントを同時開催することで、飲食店の集客及び街なかの周遊促進に繋がった。</p> <p>・もち食のPRと販促を促進し、食と観光産業の連携を図った。</p> <p>【課題】 ・集客イベントを開催する目的、手段、効果について検討し、イベントのあり方を工夫する必要がある。</p> <p>【今後の方向性】 ・継続実施。 ・一岡、平泉地域のにぎわいを創出するとともに、「もち食文化」の魅力を図内外に向けて発信し、当地域のPRや関連産業の発展、活性化を図ることを目的に開催する。 ・フードフェスティバルとしてだけでなく、一岡のもち食文化の体験を提供するイベントとして開催する。</p>
	<p>〇全国もちフレステイティブイベント開催補助金</p> <p>【事業概要】 ・一岡の伝統的食文化である「もち食文化」を全国に向けて情報発信し、交流人口の拡大、地域経済の活性化を図ることを目的に全国もちフレステイティブ実行委員会が実施する事業に対し補助した。</p> <p>【実施状況】 ・補助金 4,500,000円 ・開催日 11月11日から12日まで (スタンプラリーイベント：10月13日から11月30日まで) ・参加店 20店舗 (スタンプラリーイベント：14店舗) ・来場者数 11,959人 (総供食数 16,417食)</p>	<p>〇大東大原水かけ祭り保存会事業費補助金</p> <p>【事業概要】 「一岡市・大東大原水かけ祭り」の運営、管理、保存を目的に、一岡市・大東大原水かけ祭り保存会が実施する事業に対し補助した。</p> <p>【実施状況】 ・補助金 2,250,000円 ・開催日 2月11日 ・参加者数 208人 (令和元年度 273人) ・来場者数 28,000人 (令和元年度 28,000人)</p>	<p>【成果・効果】 ・4年ぶりに裸男へ水かけ(清め水)する通常開催となり、にぎわいの回復に繋がった。また来場者からは「見ごたえがあり大変良かった」との声が寄せられた。</p> <p>【課題】 ・少子高齢化により、地元の高齢者が減少してきている。持続可能な祭りとなるよう実施体間等の検討が必要。</p> <p>【今後の方向性】 ・継続実施。</p>	<p>【成果・効果】 ・幅広い年代から出品された「あんどん絵」が商店街の沿道に飾られ、道行く人々の心を和ませている。</p> <p>【課題】 ・あんどん製作には相応の技術と手間が必要で、少子高齢化の進行により参加者の減少が心配される。</p> <p>【今後の方向性】 ・継続実施。</p>
	<p>〇水晶あんどん祭り事業費補助金</p> <p>【事業概要】 「水晶あんどん祭り」の運営を目的に水晶あんどん祭り実行委員会が実施する事業に対し補助した。</p> <p>【実施状況】 ・補助金 360,000円 ・開催日 8月15日まで ・参加者数 延べ230人 (令和元年度 300人) ・入出数 延べ2,500人 (令和元年度 3,800人)</p>	<p>〇せんまやあご光の広場事業費補助金</p> <p>【事業概要】 ・商店街への集客及び地域づくりの活性化を目的に、せんまやあご光の広場実行委員会が実施する事業に対し補助した。</p> <p>【実施状況】 ・補助金 50,000円 ・期間 12月9日から1月3日まで ・会場 要岩児童公園</p>	<p>【成果・効果】 ・公園内に電飾約7,000個を設置し、地域住民などに楽しむ場を提供した。</p> <p>・電飾した要岩児童公園は、千鶴商店街の西側にあり、遊段から子どもたちや家族連れでにぎわう公園であり、多くの人々が楽しんで、地域住民の交流が図られ、商店街のにぎわいや地域活性化に繋がった。</p> <p>【課題】 ・設置作業人数の減少が心配される。</p> <p>【今後の方向性】 ・継続実施。</p>	<p>【成果・効果】 ・幅広い年代から出品された「あんどん絵」が商店街の沿道に飾られ、道行く人々の心を和ませている。</p> <p>【課題】 ・あんどん製作には相応の技術と手間が必要で、少子高齢化の進行により参加者の減少が心配される。</p> <p>【今後の方向性】 ・継続実施。</p>

令和5年度事業実施状況

基本方針	観光振興戦略	重点的取り組み	令和5年度事業実施状況	成果・効果・課題・今後の方向性など
<p>2 観光資源の活用と情報発信の充実</p>	<p>①地域資源の掘り起こしと活用 ②観光情報の充実 ③ニューツーリズムの推進 ④栗駒山、壺根山、館ヶ森エリアやその周辺の観光資源の活用 ⑤誘客の推進 ⑥外国人に対する情報発信の強化</p>	<p>(1)観光資源の掘り起こし・磨き上げによる魅力の創出 (2)「食・農・観光」の連携による魅力の発信 (3)四季を通じた特色あるイベントの充実 (4)観光ホームページやSNS等多様なツールを活用した国内外に対する情報発信の強化 (5)体験型観光の強化による農家民泊、教育旅行等の誘致 (6)須川・真湯・祭時地区、壺根山、館ヶ森エリアのアウトドア資源等を活用した観光誘客の推進 (7)観光キャンペーン等と連動したプロモーションの強化</p>	<p>○唐梅絵巻実行委員会補助金 【事業概要】 ・約100年前の軍議を再現し地域活性化を図ることを目的に唐梅絵巻実行委員会が実施する事業に対し補助した。 【実施状況】 ・補助金 5,500,000円 ・開催日 9月21日 ・来場者数 9,400人（令和元年度 16,500人）</p> <p>○むらね産業文化祭実行委員会負担金 【事業概要】 ・祭壇地域の産業、交通防犯、保健、文化活動などの成果が一堂に会するむらね産業文化祭の開催に対する負担金 【実施状況】 ・負担金 693,000円 ・開催日 11月11日から11月12日まで ・来場者数 2,600人（令和元年度 4,000人） ・主な事業 友好都市等物産展、一問市物産展、芸術文化展、農産物品評会など</p> <p>○鷹沼野焼祭開催負担金 【事業概要】 ・細文射での焼成方法「野焼き」を用いた土と炭の祭典「鷹沼野焼祭」の開催に対する負担金 【実施状況】 ・負担金 1,000,000円 ・開催日 8月12日から13日まで ・参加者数 4,000人（令和元年度 8,000人） ・参加作品数 646点（令和元年度 785点）</p>	<p>【成果・効果】 ・魅力ある総大将役の選定などにより誘客を図ったが、来場者が9,400人となり、令和4年度と比較して100人減少した。 【課題】 ・来場者を増やすため、イベント内容の検証や改善が必要。 【今後の方向性】 ・継続実施。 ・関係者と協議しながら、イベント内容を検討する。</p> <p>【成果・効果】 ・令和5年度は、新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことと通商関係となり、農産物品評会も開催し、にぎわいの回復に繋がった。さらに地元事業者からの協力により、デザインポイントが数多くあり、観光気風会の鹿の角ラフナーなど体験型イベントを実施し、好評を得た。 【課題】 ・リンゴ共進会など農林部門で高齢化や後継者不足により出品数が減少し継続が難しくなっている。 【今後の方向性】 ・継続実施。（但し、集客につながるイベント内容を検討する。）</p> <p>【成果・効果】 ・市を代表する祭典地域の一大イベントであり、協働により取組んでいる。 【課題】 ・少子高齢化により、自治会の参加や協賛金の減少が著しく、祭りの存続が懸念される。 【今後の方向性】 ・継続実施。</p> <p>【成果・効果】 ・特色ある「もち食文化」を観光資源として磨き上げ、市内外への周知に取組んだことで、テレビや雑誌などメディアからの取材が増加してきている。 ・継続的に取り組んでいるもち食文化の普及が図られている。 【課題】 ・もちマイスターの育成と活用。 【今後の方向性】 ・継続実施。 ・「もち食」を活用した事業を展開し、「もちの聖地いちのせき」のさらなる認知拡大を目指す。</p> <p>【成果・効果】 ・パンフレットを県内外の観光施設等へ配架し、当市をPRしている。 ・インバウンド向けパンフレットとして英語と中国語のパンフレットを作成した。 （仙台湾観光情報発信業務で、観光プロモーション動画を3本制作し、YouTubeで動画を公開することで、市の観光PR、来訪のきっかけづくりに繋がった。） 【課題】 ・パンフレットやH1P掲載の観光情報内容の更新が必要である。 【今後の方向性】 ・継続実施。 ・各種媒体を活用し観光客の誘客を促進する。</p>
			<p>○食と農の観光PR事業費（再掲） 【事業概要】 ・一問の伝統的食文化である「もち食文化」の普及・継承と「もち食」を活用した観光振興を図った。 【実施状況】 ・事業費 6,239,073円 ・一問もち食推進会議の開催（年7回） ・もち本陣体験授業の実施（中里小6年20人、滝沢小6年17人） ・もちマイスター検定及びフォローアップ研修の実施 ・一問の多彩なもち料理のデモンストラーション化 ・一問もち食PRキャラクター及び一問市もち食PRロゴマークの募集、決定</p>	
			<p>○観光振興事業費 【事業概要】 ・観光パンフレットや広告、各種情報発信等の充実を図り、当市への誘客を促進した。 【実施状況】 ・観光パンフレット等印刷 5,682,430円 ・各種宣伝広告（看板等）の広告掲載 2,663,144円 ・仙台湾等観光情報発信業務委託 2,200,000円 ・観光ホームページメンテナンス保守業務等委託 330,000円（ほか）</p>	

令和5年度事業実施状況

基本方針	観光振興戦略	重点的取り組み	令和5年度事業実施状況	成果・効果・課題・今後の方向性など
<p>2 観光資源の活用と情報発信の充実</p>	<p>①地域資源の掘り起こしと活用 ②観光情報の充実 ③ニューツーリズムの推進 ④栗駒山、室根山、箱ヶ森エリアやその周辺の観光資源の活用 ⑤誘客の推進 ⑥外国人に対する情報発信の強化</p>	<p>重点的取り組み</p>	<p>○得意な広域観光推進協議会負担金</p> <p>【事業概要】 ・地域の魅力を高め、観光地の魅力向上と観光需要の拡大を図ることを目的に事業を実施する伊達広域観光推進協議会に対する負担金 ・負担金 750,000円</p> <p>【実施状況】 ・主な事業 ▶教育旅行誘致事業 ▶インフルエンツ更新、旅行代理店・学校等へのセールス活動 ▶同遊促進事業（レンタカー・プラン車売） ▶広報・PR事業（ホームページ運営等）</p>	<p>【成果・効果】 ・宮城県・岩手県・山形県6市4町の行政、商工及び観光関係団体と参画し、広域的な観光客の誘致宣伝事業や観光客の受入事業など、より有効性のある連携施策を展開している。 ・北海道、関東、中部、関西を中心とする全国の旅行代理店や学校に対し、訪問セールスやセミナーの共催率により、当エリアの教育旅行誘致に繋がった。 【課題】 ・近隣の登米市及び栗原市が加入しておらず、多面的かつ連続性のある事業の展開（例：大入教の農産物の受入など）が難しい。 【今後の方向性】 ・継続実施。 ・スケールメリットを生かした教育旅行の誘致に期待できる。</p>
	<p>①観光資源の掘り起こし・磨き上げによる魅力の創出 ②「食・農・観光」の連携による魅力の発信 ③四季を通じた特色あるイベントの充実 ④観光ホームページやSNS等多様なツールを活用した国内外に対する情報発信の強化</p>	<p>○いわて観光キャンペーン協議会負担金</p> <p>【事業概要】 ・観光キャンペーンの取り組みを通じ、観光に関わる事業者や県・自治体と連携しながら観光資源を全国に向けて情報発信し、交通人口の拡大を図り、観光産業の振興と観光地づくりを通じた地域活性化を促進することを目的とする負担金 【実施状況】 ・負担金 410,000円 ・主な事業 ▶岩手県の「JR東日本重点販売地域指定に併せた冬季観光キャンペーン（令和6年1月～3月）の展開。 ▶広報媒体や各種イベント等による情報発信や、民間企業と連携した周遊促進事業などの宣伝誘客事業の実施。 ▶インバウンド向けのセールス活動や、わんこきようたいを活用した観光PRなどの誘客事業の実施。 ▶盛岡市のニューヨー・タイムズ紙掲載を契機としたプロモーション強化。</p>	<p>【成果・効果】 ・官民一体となった「オール岩手」で誘客拡大を図るため、JR東日本と連携した観光キャンペーンを実施することで、当市の観光PRに寄与している。 【課題】 ・県全体へ観光客の周遊を促進させる取組を継続する必要がある。 【今後の方向性】 ・今後も継続加入することで、当市へのさらなる誘客の拡大を図る。 ・令和6年度秋季（令和6年10月～12月）に、岩手県が「JR東日本の重点販売地域」に指定されたことに伴い、JR東日本と連携した観光キャンペーンの実施が計画され、県全体での観光PRを通じて当市への誘客促進も見込まれる。</p>	<p>【成果・効果】 ・岩手県や県内全市町村、観光関係団体等が連携して岩手県観光の魅力を生かすPRした。 【課題】 ・令和5年の本県の延べ宿泊者数は、前年に比べ約13%増加の約571万人となり、コロナ禍前の令和元年比の約9割まで回復した。外国人延べ宿泊者数は前年を大きく上回り、令和元年比の約8割まで回復したことから、さらなる誘客拡大の取組が必要である。 【今後の方向性】 ・県、市町村、各観光協会や観光関係団体と連携し、本県の観光宣伝や観光客の誘致に取り組んでいる。観光産業の中心的役割を担う団体であり、継続加入することで当市への誘客拡大に期待できる。</p>
	<p>○岩手県観光協議会負担金</p> <p>【事業概要】 ・岩手県の観光宣伝、観光客の誘致促進、国際観光の推進等により観光振興を図るため、観光客の地域活性化と県民生活の向上発展に寄与することを目的とする協議会の負担金 【実施状況】 ・負担金 1,557,000円 ・主な事業 ▶観光情報の発信（いわて旅の地図更新・増刷・配布ほか） ▶国内観光客の誘致促進（東京・大阪・名古屋での観光客誘致説明会開催、ユーザーエージェント招待対応、東京・大阪・札幌・札幌での教育旅行誘致説明会開催ほか） ▶国際観光の推進（海外商談会へのオンライン参加、国際航空便誘致説明会の実施、外国人観光客案内ほか） ▶受入態勢の整備（いわて観光おもてなしセンター設置対応ほか）</p>	<p>重点的取り組み</p>	<p>【成果・効果】 ・岩手県や県内全市町村、観光関係団体等が連携して岩手県観光の魅力を生かすPRした。 【課題】 ・令和5年の本県の延べ宿泊者数は、前年に比べ約13%増加の約571万人となり、コロナ禍前の令和元年比の約9割まで回復した。外国人延べ宿泊者数は前年を大きく上回り、令和元年比の約8割まで回復したことから、さらなる誘客拡大の取組が必要である。 【今後の方向性】 ・県、市町村、各観光協会や観光関係団体と連携し、本県の観光宣伝や観光客の誘致に取り組んでいる。観光産業の中心的役割を担う団体であり、継続加入することで当市への誘客拡大に期待できる。</p>	<p>【成果・効果】 ・岩手県や県内全市町村、観光関係団体等が連携して岩手県観光の魅力を生かすPRした。 【課題】 ・令和5年の本県の延べ宿泊者数は、前年に比べ約13%増加の約571万人となり、コロナ禍前の令和元年比の約9割まで回復した。外国人延べ宿泊者数は前年を大きく上回り、令和元年比の約8割まで回復したことから、さらなる誘客拡大の取組が必要である。 【今後の方向性】 ・県、市町村、各観光協会や観光関係団体と連携し、本県の観光宣伝や観光客の誘致に取り組んでいる。観光産業の中心的役割を担う団体であり、継続加入することで当市への誘客拡大に期待できる。</p>

令和5年度事業実施状況

基本方針	観光振興戦略	重点的取り組み	令和5年度事業実施状況	成果・効果・課題・今後の方向性など
<p>3 受け入れ態勢の整備</p> <p>①おもてなし意識の醸成とガイドの確保</p> <p>②観光施設、公共施設等の受入環境の整備</p> <p>③観光ルートの整備</p> <p>④二次交通網の構築</p>	<p>観光振興戦略</p>	<p>重点的取り組み</p> <p>(1)研修会等によるおもてなし意識の醸成</p> <p>(2)観光ガイドの養成や組織の育成支援等による受入態勢の充実</p> <p>(3)統一した案内標識の導入やWi-Fi環境の拡大等による受入環境の整備</p> <p>(4)スケールメリットを生かした観光ルートの整備・向上</p> <p>(5)二次交通網の構築</p>	<p>○観光振興事業（観光客おもてなし向上セミナー開催）</p> <p>【事業概要】 ・一関市観光協会や一関商工会議所と連携し、観光事業者等を対象としたセミナーを実施した。</p> <p>【実施状況】 ・参加費 48,000円 ・開催日 2月19日 ・参加者 45名</p> <p>○観光ガイド事業費</p> <p>【事業概要】 ・外国人に対する英語や中国語での観光案内業務委託と一ノ関駅構内での観光案内業務委託を実施した。</p> <p>【実施状況】 ・外国人に対する観光案内業務 ・一ノ関駅構内における観光案内業務 ▶委託料 4,699,376円 ▶委託料 950,625円 ▶開設期間 4月22日から11月5日まで</p> <p>○観光ボランティアガイド団体補助金</p> <p>【事業概要】 ・観光ボランティアガイドの運営に対し補助した。</p> <p>【実施状況】 ・補助金交付件数 2件 ・交付団体 282,000円 ・観光交流ネット千鶴 45,000円</p> <p>○観光期間二次交通整備事業費補助金（再掲）</p> <p>【事業概要】 ・観光客の円滑な移動を図るため、平泉町から距離溪間及び一ノ関駅から須川温泉間のバス運行事業に係る経費に対し補助した。</p> <p>【実施状況】 ・補助金交付件数 2件 ・平泉駅一駅南溪間 火曜日運休 1日3往復 ▶補助金 3,957,379円 ▶運行期間 4月29日から11月5日まで ▶利用者数 2,598人（令和元年度 4,321人 ※1日4往復） ・一ノ関駅一駅川温泉間 毎日運行 1日2往復 ▶補助金 3,455,294円 ▶運行期間 6月17日から10月31日まで ▶利用者数 3,969人</p> <p>○世界遺産連携推進実行委員会負担金（再掲）</p> <p>【事業概要】 ・世界遺産を活用した一層の誘客促進を図ることを目的に事業を実施する「世界遺産連携推進実行委員会」に対する負担金</p> <p>【実施状況】 ・負担金 1,500,000円 ・主な事業 ▶世界遺産平泉エリア難方向上・周遊促進事業 ▶国内主要市場誘客事業 ▶国外主要市場誘客事業</p>	<p>【成果・効果】 ・増加する台湾を中心とした中国圏の外国人観光客の満足度向上、リピーター獲得に必要な知識や方法を学ぶことを目的に実施した。</p> <p>【課題】 ・地域全体で外国人観光客の視点に立ったおもてなしの機運醸成を図る必要がある。</p> <p>【今後の方向性】 ・継続実施 ・令和6年度は、世界遺産連携推進実行委員会事業としてセミナーを開催する。</p> <p>【成果・効果】 ・若手職員の玄関口としてきめ細やかなサービスを提供することで、観光客の満足度アップに繋がった。 ・英語・中国語を話せるスタッフを観光案内所に配置することで、インバウンド誘客にも繋がっている。</p> <p>【課題】 ・さらなるインバウンド回復に向け、情報発信を積極的に行うことが必要である。</p> <p>【今後の方向性】 ・観光ガイド人材の育成と確保が必要とされる。 ・継続実施。 ・リピーターに繋がるように観光客へのより一層のきめ細やかな観光案内を図る。</p> <p>【成果・効果】 ・各種イベントへの協力や出前講座での講演、自主研修等の実施を支援することによって、新たな観光資源の発掘やPRに繋がった。</p> <p>【課題】 ・引き続きガイド人材を養成し、受け入れ態勢のサポートや組織強化を図ることが必要である。</p> <p>【今後の方向性】 ・継続実施。 ・ボランティアガイド団体への新規加入者の増加を目指す。</p> <p>【成果・効果】 ・観光客の円滑な移動手段（利便性）を確保し、周遊観光を促進させ、滞在時間や交流人口の拡大を図った。 ・利用者は、令和4年度と比較し、平泉・千鶴及び溪線は1,669人、須川温泉線は580人増加しており、コロナ禍以降減少していた観光客の利用状況は回復傾向にある。</p> <p>【課題】 ・平泉・千鶴及び溪線は、現状の利用人数では、費用対効果が見合わない。 ・2階線ともに赤字路線であり、市からの補助金がなければバス運行を継続することができない。</p> <p>【今後の方向性】 ・周遊観光を促進するため、今後もバス路線の維持継続が必要と捉えている。利用支援の把握による運行形態の見直しやPR等により利用者の増えを促す。</p> <p>【成果・効果】 ・1か月の誘客イベントで、LINE友達が増加950名増加し、平泉町、奥州一関市、一関市に訪れた観光客の誘客に繋がった。 ・平泉を中心にSNSを活用したキラーワードラリーを実施することで、楽しみながら広域周遊観光を促進させたことができた。 ・金色堂建立900年を迎える中尊寺などの「世界遺産平泉」を広くPRし、首都圏からの誘客に努めた。</p> <p>【課題】 ・タイのイベントにPRブースを出展し、当地方の認知度向上と誘客促進を図った。 ・国内外からの誘客のため、首都圏や海外への平泉世界遺産の情報発信が必要とされている。</p> <p>【今後の方向性】 ・継続実施。 ・WEBxSNSを活用し、滞在観光や周遊観光に向けた情報発信の強化を図る。</p>

令和5年度事業実施状況

基本方針	観光振興戦略	重点的取り組み	令和5年度事業実施状況	成果・効果・課題・今後の方向性など
<p>4 広域連携の推進</p>	<p>①近隣市町村や関係市町村との連携 ②地域資源の相互利用</p>	<p>(1)県境を越えた近隣市町村との連携の強化 (2)姉妹都市、友好都市との交流の推進 (3)広域的な周遊観光の創出による滞在型観光の促進</p>	<p>○広域連携推進事業表</p> <p>【事業概要】 ・湯原市、栗原市、東成瀬村と連携し広域での観光振興を図るため、観光パンフレットの作成、観光施設スタンプラリー、栗駒山麓観光写真コンクール、紅葉時期の渋滞対策等を実施した。</p> <p>【実施状況】 ・主幹事業 1,731,489円 ▶栗駒山麓周遊スタンプラリー開催日 8月1日から10月31日まで ▶栗駒山麓観光写真コンクール応募期間 令和5年12月1日から令和6年1月15日まで</p> <p>○停滞な広域観光推進協議会負担金（再掲）</p> <p>【事業概要】 ・地域や県境を越えた連携を強め、観光地の魅力向上と観光需要の拡大を図ることを目的に事業を実施する伊達な広域観光推進協議会に対する負担金</p> <p>【実施状況】 ・負担金 750,000円 ・主な事業 ▶教育旅行誘致事業（サンフレットの東原、旅行代理店・学校等へのセールス活動） ▶周遊促進事業（レンタカーツアー販売） ▶広報・PR事業（ホームページ運営等）</p>	<p>【成果・効果】 ・栗駒山にまたがる4市村で連携事業を実施することで、魅力的な周遊型観光の促進に繋がっている。 【課題】 ・さらなる誘客の促進を図るため、事業内容を見直すなど工夫が必要である。 【今後の方向性】 令和6年度は、スタンプラリーと写真コンクールの内容を見直し、若者などが気軽に参加しやすいSNSを活用したプロモーションとして開催する。</p>
<p>4 広域連携の推進</p>	<p>①近隣市町村や関係市町村との連携 ②地域資源の相互利用</p>	<p>(1)県境を越えた近隣市町村との連携の強化 (2)姉妹都市、友好都市との交流の推進 (3)広域的な周遊観光の創出による滞在型観光の促進</p>	<p>○いわて観光キャンペーン協議会負担金（再掲）</p> <p>【事業概要】 ・観光キャンペーンの取り組みを通じ、観光に関わる事業者や県、自治体と連携しながら観光資源を全国に向けて情報発信し、交流人口の拡大を図り、観光産業の振興と観光地づくりを通じた地域活性化を促進することを目的とする負担金</p> <p>【実施状況】 ・負担金 410,000円 ・主な事業 ▶若手旅の「JR東日本重点販売地域指定に併せた冬季観光キャンペーン（令和6年11月～3月）の展開」 ▶広報媒体や各種イベント等による情報発信や、民間企業と連携した周遊促進事業などの宣伝誘客事業の実施。 ▶インバウンド向けのセールス活動や、わんこきようたいを活用した観光PRなどの誘客事業の実施。 ▶盛岡市のニューヨーク・タイムズ紙掲載を契機としたプロモーション強化。</p>	<p>【成果・効果】 ・宮城県・若手旅、山形県6市4町の行政、商工及び観光関係団体が参画し、広域的な観光振興事業や観光客の受入事業など、より有効性のある連携施策を展開している。 ・北海道、関東、中部、関西を中心とする全国の旅行代理店や学校に対し、訪問セールスやモニタリングの実施等により、当エリアの教育旅行教材や補助制度をPRし、誘致に繋がった。 【課題】 ・近隣の森米市及び栗原市が加入しておらず、多面的かつ連続性のある事業の展開（例：大人数の農泊の受入など）が難しい。 【今後の方向性】 ・継続実施。 ・スケールメリットを生かした教育旅行の誘致に期待できる。</p>
<p>4 広域連携の推進</p>	<p>①近隣市町村や関係市町村との連携 ②地域資源の相互利用</p>	<p>(1)県境を越えた近隣市町村との連携の強化 (2)姉妹都市、友好都市との交流の推進 (3)広域的な周遊観光の創出による滞在型観光の促進</p>	<p>○若手旅観光協議会負担金（再掲）</p> <p>【事業概要】 ・若手旅の観光宣伝、観光客の誘致促進、国際観光の推進等により観光振興を図り、地域活性化と県民生活の向上発展に寄与することを目的とする協議会への負担金</p> <p>【実施状況】 ・負担金 1,557,000円 ・主な事業 ▶観光情報発信（いわて旅の地図更新・増刷・配布ほか） ▶国内観光客の誘致促進（東京・大阪・名古屋での観光客誘致説明会開催、エージェンメント招待対応、東京・大阪・札幌での教育旅行誘致説明会開催ほか） ▶国際観光の推進（海外商談会へのオンライン参加、国際航空機到着代行の実施、外国人観光客案内ほか） ▶受入態勢の整備（いわて観光おもてなしセンター設置対応ほか）</p>	<p>【成果・効果】 ・「官民一体となった「オール若手」で誘客拡大を図るため、JR東日本と連携した観光キャンペーンを実施することで、当市の観光PRに寄与している。 【課題】 ・県全体へ観光客の周遊を促進させる取組を継続する必要がある。 【今後の方向性】 ・今後継続加入することで、当市へのさらなる誘客の拡大を図る。 ・令和6年度秋季（令和6年10月～12月）に、若手旅が「JR東日本の重点販売地域」に指定されたことに伴い、JR東日本と連携した観光キャンペーンの実施が計画され、県全体での観光PRを通して当市への誘客促進も見込まれる。</p>
<p>4 広域連携の推進</p>	<p>①近隣市町村や関係市町村との連携 ②地域資源の相互利用</p>	<p>(1)県境を越えた近隣市町村との連携の強化 (2)姉妹都市、友好都市との交流の推進 (3)広域的な周遊観光の創出による滞在型観光の促進</p>	<p>○若手旅観光協議会負担金（再掲）</p> <p>【事業概要】 ・若手旅や県内全市町村、観光関係団体等が連携して若手県観光の魅力をPRした。</p> <p>【課題】 令和5年の本県の延べ宿泊者数は、前年に比べ約13%増加の約571万人泊となり、コロナ禍前の令和元年比の約9割まで回復した。外国人延べ宿泊者数は前年を大きく上回り、令和元年比の約8割まで回復したことかから、さらなる誘客拡大の取組が必要である。</p> <p>【今後の方向性】 ・県、市町村、各観光協会や観光関係団体と連携し、本県の観光宣伝や観光客の誘致に取り組んでいる。観光産業の中心地的役割を担う団体であり、継続加入することで当市への誘客拡大に期待できる。</p>	<p>【成果・効果】 ・岩手県や県内全市町村、観光関係団体等が連携して若手県観光の魅力をPRした。 【課題】 令和5年の本県の延べ宿泊者数は、前年に比べ約13%増加の約571万人泊となり、コロナ禍前の令和元年比の約9割まで回復した。外国人延べ宿泊者数は前年を大きく上回り、令和元年比の約8割まで回復したことかから、さらなる誘客拡大の取組が必要である。 【今後の方向性】 ・県、市町村、各観光協会や観光関係団体と連携し、本県の観光宣伝や観光客の誘致に取り組んでいる。観光産業の中心地的役割を担う団体であり、継続加入することで当市への誘客拡大に期待できる。</p>

■各地域の重点取り組み

一関地域

- 世界文化遺産「平泉」と市内観光地を結ぶ周遊観光ルートの定着と公共交通機関の利用促進
- 地元ガイドによる歴史の小道などの施設策
- 東京都豊島区、福島県三春町、宮城県山形市などでの物産と観光展の開催
- 栗駒山（須川岳）、真湯・祭時地区への誘客と栗駒山麓周辺市村との連携の強化
- 一関温泉祭や各種イベントの情報発信

千厩地域

- 千厩酒のくらし交流施設への誘客促進
- 夫婦石の情報発信のための事業実施
- 東京都世田谷区での物産と観光展の開催

川崎地域

- 東京都町田市、神奈川県川崎市での物産と観光展の開催
- 道の駅かわさきを活用した情報発信
- 農家民泊の受け入れ態勢の整備

花泉地域

- 花と泉の公園の情報発信
- 花や自然に特化したファミリー向けイベントの企画実施
- 東京都江東区での物産と観光展の開催

東山地域

- 鹿島塚への誘客と回遊対策の強化
- 東京都品川区での物産と観光展の開催

藤沢地域

- 鹿ヶ森収蔵祭などのイベント開催・情報発信による鹿ヶ森エリアへの誘客促進
- 花や動物に特化したファミリー向けイベントの企画実施
- 東京都中央区での物産と観光展の開催
- 農家民泊の受け入れ態勢の整備

大東地域

- 地域内の観光地や民俗資料館、戸東山記念館の情報発信
- 建設を進めている国道343号渋民バイパス「道の駅」を活用した誘客促進
- 神奈川県藤沢市での物産と観光展の開催

室根地域

- 室根山周辺で開催されるアウトドアスポーツの推進
- 室根山観光の情報発信と「森は海の恋人」権藤家に係る文仙沼市との連携支援
- 埼玉県吉川市での物産と観光展の開催
- 和歌山県田辺市、和歌山県新宮市との熊野交流推進と愛根神社特別大祭開催に係る連携の強化

■計画の推進

市民、観光関係団体等、DMO及び市が共に連携し、観光をめぐる環境の変化に対応した有効な取り組みを行っていくことが必要です。このため、それぞれが担う役割を明確にし、本計画が着実に推進されるよう取り組みます。

■市民・観光関係団体等・DMO・市の役割

【市民】

- 観光客に感動を呼び、リピーターとなっただけのようおもてなしの心を持っていやしの里へ観光客を迎えられるため、住む場所、観光地の清掃活動や観光ガイド、各種イベントへの参加
- SNSなどを活用した情報発信による本市の魅力アップにつながる身近な活動

【DMO】

- 行政や観光関係事業者をはじめとする様々な産業の事業者や地域住民等の多様な関係者を調整
- 地域全体での戦略的な観光地域づくりと地域内経済循環の推進を主導

■観光振興に関する施策の評価

年度ごとに一関市観光審議会において観光振興に関する施策の評価を行いながら有効性を高めていきます。

■観光統計の整備等

観光産業に携わる民間、市、団体などが適切な施策や事業を実施するため、各種観光統計の整備等の実施など、現状をより正確に把握するよう努めます。

【観光関係団体等】

- 観光客のニーズに対応した商品造成やイベントの企画
- 地域内経済循環を高める視点を持って、各種サービスの向上やおもてなし力の向上、情報発信
- インバウンドを呼び込むためのWi-Fi環境の整備促進やキャッシュレス化、多言語への対応

【市】

- 観光事業者、観光分野以外の関連事業者、市民等との密接な連携のもと、総合産業としての観光産業の振興策の策定
- 地域資源を生かした観光産業の振興



概要版



一関市観光振興計画

(令和4年度～令和8年度)

一関市

Summer

Spring

Autumn

Winter

観光は裾野の広い産業で、観光が盛り上がると、地域産品が消費されたり、新たに働く場所が増えたり、いちのせきの地域経済に大きな効果を生み出す産業だからです。

どうして、みんな観光に取り組む必要があるの？



一関市観光振興計画 (令和4年度～令和8年度) 概要版

発行：一関市 編集：一関市商工労働部観光物産課 〒021-8501 岩手県一関市竹山町7番2号
TEL 0191-21-2111 (代) FAX 0191-31-3037
<https://www.city.ichinoseki.iwate.jp/>

基本理念

恵まれた自然と悠久の歴史が育むいやしの里 いちのせき

本計画の 目標指標

令和元年度 (2019年度)
年間観光入込客数 約221万人回
外国人観光入込客数 42,700人回
※参考指標 観光消費額 124億円

令和8年度 (2026年度) 目標値
年間観光入込客数 221万人回
外国人観光入込客数 42,700人回
※参考指標 観光消費額 124億円

指標の考え方

新型コロナウイルス感染症流行前の令和元年度を基準とし、令和8年度までに基準年度への回復を目指すものです。



一関市観光振興計画

(令和4年度～令和8年度)

【一関市の観光の課題】

1 平泉との連携強化による一関ブランドの発信

- SNS等、各種情報発信ツールを活用した取組
- 効果的かつ効率的な事業の展開
- DMOを中心とした一関・平泉エリアにおける観光地域づくりの推進

2 観光資源の活用と情報提供の充実

- 各地域の祭りやイベントを活用した観光客の誘致
- パンフレットの見直し、集約、内容の精査と効果的な方策
- 観光施設の在り方の検討、見直し
- 関係者等が連携した適時適切な情報の発信
- 「もちのブランド化」構築のための一体的な機運の醸成

- 一関三大フェスティバル（全国もちフェスティバル、全国地ビールフェスティバル、一関・平泉バルーンフェスティバル）等、特徴あるイベントの充実、進展
- 体験型観光の構築と磨き上げ

3 観光に関する受け入れ態勢の整備

- おもてなし意識の醸成
- ボランティアガイドの養成・確保
- 多言語化への対応
- 二次交通網の維持、整備

4 広域連携の推進

- 近隣市町村等との連携による観光振興事業の実施

5 インバウンド誘客の推進

- 多言語化や広域連携の強化のほか、「農泊 食文化海外発信地域」の計画に基づいた取組の推進

基本方針

1

平泉との連携強化による「いちのせき」の発信

2

観光資源の活用と情報発信の充実

3

受け入れ態勢の整備

4

広域連携の推進

5

新型コロナウイルス感染症収束後を見据えた観光施策

観光振興戦略

- ① 平泉と主要観光地をつなぐルートを生かした一関ブランドの発信
- ② 骨寺村荘園遺跡の活用や平泉とのゆかりを生かした観光振興
- ③ 観光地域づくりと地域内経済循環の推進

- ① 地域資源の掘り起こしと活用
- ② 観光情報の充実
- ③ 栗駒山、至相山、鉈ヶ森エリアやその周辺の観光資源の活用
- ④ 乗鞍山、至相山、鉈ヶ森エリアやその周辺の観光資源の活用
- ⑤ 誘客の推進
- ⑥ 外国人に対する情報発信の強化

- ① おもてなし意識の醸成とガイドの確保
- ② 観光施設、公共施設等の受入れ環境の整備
- ③ 観光ルートの整備
- ④ 二次交通網の構築

- ① 近隣市町村や関係市町村との連携
- ② 地域資源の相互利用

- ① 新たな観光資源の開拓と観光需要への対応
- ② 安全安心な受け入れ態勢の推進
- ③ ワークーション・プレジャーの推進
- ④ インバウンドの推進
- ⑤ 持続可能な観光の推進

重点的取り組み

- (1) 世界文化遺産「平泉」と市内観光地を結ぶ周遊観光ルート の定着と公共交通機関の利用促進
- (2) 一関・平泉地域の特産品やもち食文化など特徴的な観光資源を活用した誘客事業の創出
- (3) 骨寺村荘園遺跡など平泉とのゆかりを生かした観光誘客の推進
- (4) 一般社団法人世界遺産平泉・一関DMOや観光関連事業者などとの連携による観光地域づくりと地域内経済循環の推進

- (1) 観光資源の掘り起こし・磨き上げによる魅力の創出
- (2) 「食・農・観光」の連携による魅力の発信
- (3) 四季を通じた特色あるイベントの充実
- (4) 国内外ホームページやSNS等多様なツールを活用した国内外に対する情報発信の強化
- (5) 体験型観光の強化による農家民泊、教育旅行等の誘致
- (6) 須川・真湯・祭時地区、至相山、鉈ヶ森エリアのアウトドア資源等を活用した観光誘客の推進
- (7) 観光キャンペーン等と連動したプロモーションの強化

- (1) 研修会等によるおもてなし意識の醸成
- (2) 観光ガイドの養成や組織の育成支援等による受け入れ態勢の充実
- (3) 統一した案内標識の導入やWi-Fi環境の拡大等による受入環境の整備
- (4) スケールメリットを生かした観光ルートの整備・向上
- (5) 二次交通網の構築

- (1) 県境を越えた近隣市町村との連携の強化
- (2) 姉妹都市、友好都市との交流の推進
- (3) 広域的な周遊観光の創出による滞在型観光の促進

- (1) 観光需要の把握と分析による既存資源の活用と新しい資源の創出
- (2) 安全安心な受け入れ態勢の確立
- (3) 一関型ワークーション・プレジャーの構築
- (4) インバウンド推進のための受け入れ環境整備や情報発信の強化
- (5) 持続可能な観光の実現に向けた取組の推進